

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	文化国際課長 坂本 偉健	電話番号	0852-22-6006
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	北東アジア地域自治体との連携		
目的	(1) 対象	友好関係にある北東アジア地域自治体	
	(2) 意図	友好関係の強化を図る。	
事業概要	北東アジア地域に対する県民の理解と親善を深め、同地域とのネットワークの構築及び連携を図るため、同地域の自治体等との交流を推進する。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 北東アジア地域自治体等との直接的な接触回数	目標値		12.0	12.0	12.0	12.0	回
		取組目標値						
	式・定義 相互派遣・受入回数 (姉妹・友好交流自治体及び北東アジア地域自治体連合)	実績値		12.0				%
		達成率		-	-	-	-	
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						%
		達成率		-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	18,020	13,392
うち一般財源 (千円)	14,003	13,392

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

韓国・慶尚北道との交流中断は続いているが、中国・寧夏回族自治区及び吉林省、ロシア・沿海地方とは、20年以上に亘る姉妹・友好関係が深化しており、本県との相互派遣・受入による交流が安定的に継続している。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

本県及び本県の交流自治体等が参加する北東アジア地域自治体連合(NEAR)においては、本県から事務局に派遣した職員が日本の会員自治体との窓口となって北東アジア地域自治体とのネットワーク構築や交流推進に取り組み、効果的な組織運営に寄与した。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

- ①困っている「状況」
韓国・慶尚北道との交流が中断しており、日韓の相互理解、交流推進に影響を及ぼしている。
- ②困っている状況が発生している「原因」
竹島の領有権問題が原因となっている。
- ③原因を解消するための「課題」
国(外交)レベルでの解決を図るべき領有権問題とは切り離し、官民の様々なチャネルを通じて、慶尚北道との関係改善に向けて地道に粘り強く取り組んでいく必要がある。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

韓国・慶尚北道との交流再開に向けて、当面は民間レベルでの日韓交流事業や相互理解を促進する取り組みへの支援を継続していくとともに、将来の日韓交流を担うリーダーの育成を図っていく。
その他の地域についても、自治体間の友好関係は、本県の国際化推進の根幹であり、今後は民間レベルの交流はもとより、経済(観光、貿易等)や教育・文化等の多彩な分野での交流へと発展するよう、あらゆる可能性を探っていく。

9. 追加評価(任意記載)

課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。
上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。